

第4回水稻病害虫発生予察結果（伊豆市内）

4月下旬～5月上旬田植えの早生品種（コシヒカリ等）

【生育状況と栽培管理】

4月下旬から5月上旬に田植えを行った田んぼでは、早い所では穂揃期、多くの田んぼは出穂が始まっております。

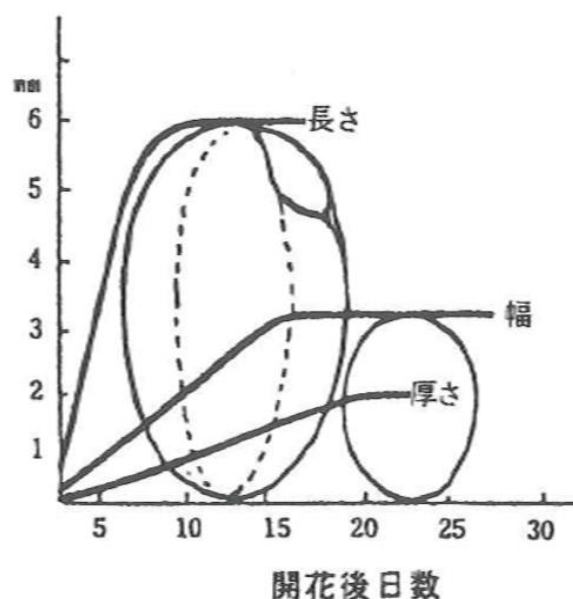
出穂や、玄米の生育には水が必要となりますので、この期間に水を切らすと出穂の遅れや稔実が悪くなる可能性が高まるため、田んぼの水が干上がらないように十分に注意してください。

《玄米の成長に要する開花後日数》

- ①米粒の長さは5～6日頃
- ②米粒の幅は15～16日頃
- ③米粒の厚さは20～25日頃 に決まる



- ① ② ③ に該当する開花後25日間は玄米の成長を促すために田んぼに水が必要となります。



【病害虫の発生状況】

巡回の際にカメムシの発生が確認されました。粉剤の農薬で防除を行った方は吸汁される期間に対して防除期間が十分ではないため、1回目の散布から一週間後を目安に2回目の粉剤防除を行って下さい。

また、共同防除（へり防除等）により散布タイミングが穂揃期（1回目の散布）から大きくずれる場合は、ご自身で1回目の散布を行うことにより、カメムシの吸汁被害を減らすことで収穫量を減らさないように努めてください。詳しい防除タイミングや防除方法については下記の図をご覧ください。

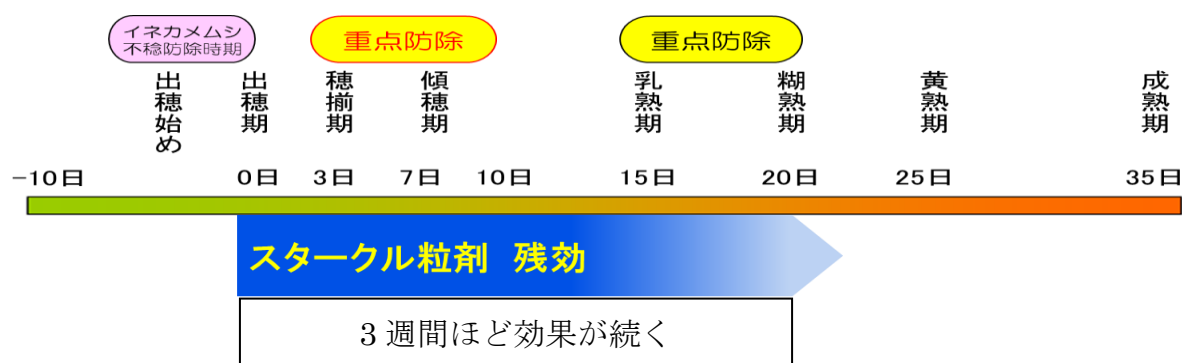
粉剤によるカメムシの防除タイミング図 薬剤：スタークル粉剤、トレボン粉剤



粒剤を利用した防除（スタークル粒剤）は、水に溶けた有効成分を植物に吸収させてカメムシの防除を行います。散布後 成分が吸収されるまでに数日かかりますが、吸収された成分は3週間ほど続きます。

出穂期に1回の散布を行って下さい。散布時の水管理は4～5日は湛水（水の深さは3cm～5cm程度）状態で管理し、散布後7日間は落水や水のかけ流しは行わないでください。

粒剤によるカメムシ防除タイミング図 薬剤：スタークル粒剤



5月下旬田植えの中晩生品種（きぬむすめ・あいちのかおり SBL 等）

【生育状況と栽培管理】

中生品種のきぬむすめでは、現在中干しを行っておりますが、幼穂の確認はできませんでした。幼穂が確認できましたら出穂までの日数の予測が出来るため、ご自身の田んぼは、こまめに確認をお願いいたします。「第3回水稻病害虫発生予察結果」に出穂タイミングや穂肥の施用タイミングが記載されておりますのでご参照ください。

【病害虫の発生状況】

今回の巡回ではカメムシが確認されております。中晩生品種の出穂の頃には、さらに増殖すると予測されるため、出穂のタイミングを確認しカメムシ防除をお願いいたします。防除タイミングは早生品種の防除の図をご覧ください。



前回の予察結果・栽培管理は
こちらからご覧になれます！
次回予察予定日 7月23日（木）



作成日：令和8年7月16日
J Aふじ伊豆修善寺営農経済センター
担当：竹村
電話：0558-72-4461